

香教連・各単組行事の様子、ご案内

中央評議員会開催



二月十日(土)香川県教育会館第一・二会議室において、平成二十九年中央評議員会を第六回会長・事務局長会、第三回執行委員会と併せて開催した。

中央評議員会は、定期大会に次ぐ議決機関であり、次年度の運動方針、年間行事を検討する大切な会議と位置づけられている。

はじめに、次年度体制について安本薫委員長が説明を行った。続いて、全日教連・井上真登事務局長から挨拶と中央情勢報告があった。

議事の中で平成三十年運動方針案、年間行事日程案等について事務局より説明があった。運動方針では、資質向上に向けての研修活動や来年度の要望活動、組織拡大等について意見が交わされ、事務局案に修正が加えられた後、承認された。

続いて、生命共済掛金等についての継続及び運用状況や次年度の行事予定、各行事の主管単組リーダーシヨンの確認等が行われ、次年度の主な活動が承認された。



第二十九回教研大会開催

一月二十日(土)、香川県教育会館第一・二会議室において、第三十九回香教連教育研究大会を開催した。今大会は高松市学校職員協議会と共催した。開会行事では、出席された国会議員や県議会議員、県内外からの多くの御来賓の方々からメッセージをいただいた。



続いて、香教連OBでもあり、現在兵庫教育大学大学院教授・上原禎弘氏をお迎えし、「子どもが主体的に取り組む体育学習—学習過程、教師の言葉かけ—」と題して記念講演が行われた。約五十名の参加者が、上原氏の現場経験を交えながらのより実践的なお話に時間を忘れ、聴き入っていた。

講演の中で上原氏は、良い体育授業条件として①精一杯運動させてくれる授業②ワザや力を伸ばしてくれる授業③友人と仲良くさせてくれる授業



④何かを発見させてくれる授業と話された。またそのような授業を展開するためには、題材に対して、学習者がどのように接近し、どのように自身をもち、これをどのように自分のものにしていくかの学習過程が重要となってくる述べられた。



さらに、基本的な学習過程として、①感性的把握(先行経験や過去経験等を足場とし、学習意欲をバネとして、学習対象に攻めかかる)②本質的把握(問いかけや対比と、グループ間の話し合いや実地検証をくわえながら、論理的、心理的に順序よく進みつつ、言語化し学習対象の本質へと迫っていく)③現実的把握(本質的把握の成果を、練習・内面化等によって定着させたり、適用によって転移させたりする)

が、必要とされることも話された。香川県で長年教師として現場で子供たちを指導してきた、上原氏のお話には説得力が溢れていた。

講演会参加者からは、「体育だけでなく、他教科にも通じる内容であり、とても分かりやすく勉強になりました。」「終末から指導をしていくことを聴いて、目からウロコでした。子供たちに学力が



身につく順序を考えると、新しい視点ももたせていただいき感謝いたします。」等、新学習指導要領の実施に向けて、より具体的な授業展開の方法の御示唆をいただくことができた講演会となった。